

あんぜん あんしん お届けします。

モグモグ

MOGMOG

2012
No.363



1

今月のおすすめ

「登録商品 まいとどちゃん」
とっても便利だね、まいとどちゃん

特集

新 春 リ レ ー ト 一 ク

日本の農業を元気にするぞお!!

おいしいを、日本の畑から。
産直の東都生協



Takumi Saito

齋藤 拓未さん (共同購入事業部：杉並センター：入職4年目)

課題は山積、だからこそ 生産者と組合員とのパイプ役に徹する

大学では「水」を専攻しました。環境問題への関心が強く、就職は学業を生かせる所を希望して活動していた時に東都生協の理念に出会い、「こた！」と思って飛び込みました。
当初、供給担当者として組合員の皆さんとは「仲良くできるかな?」「コミュニケーションは取れるかな?」と不安もありましたが、4年目になると楽しく会話ができるようになりました。今は、常に自分は何を伝えたいかを一番に考えてお話ししています。

自分が好きな商品の話は必ずしますよ。その商品を購入してくれている人には「これ僕も好きなんです」と言います。それに対するさらなる反応があればすごくうれしい。
また、生産者の気持ちを届けることも心がけています。供給担当者は生産者と組合員をつなぐ大切なパイプ役ですから、生産者が一生懸命作った物を喜んでもらえたら自分たちもうれしいんですよ。ただ、農産物は天候に左右されますから、ときに欠品が出るのは仕方ないのですが、辛いですね。

今後はどうすれば若い人たちが東都生協に加入していただけるか、他生協との差別化をどうするかなど、課題はたくさんあります。インターネットの利用や産直を支持



昨年の中、頑張ったことが日焼け顔から分かります! 「たまーに、組合員宅でお茶やお菓子をいただくことがある」とうれしそうでした! 最後は「三者」の思いを読者の皆さんに、パトタッチ!

える「生産者・組合員・職員」の三者の結束についてなども、あらためて考え直すことも必要かと思えます。
そうそう、商品案内と一緒に届けている「お知らせ」はぜひ読んでください。大切なことがたくさん書かれていますから。支店やブロックからの楽しいお誘いもありますよ! これからも一人でも多くの人に産地の思いを伝えられるよう、毎日元気な外に飛び出していきます!

若い人が農業の場で活躍できるように支えます!



富吉 浩代さん (杉並区)

農家の高齢化が叫ばれていますが、若い人たちがとって農業が魅力ある仕事になるよう心の底から願っています。また、若い人たちができないという「もの」を考えて仲間を増やしてくださいね応援しています!
職員の方には、商品の情報をもっともって教えてほしいです。組合員の目線に立って良い物はどんどんPRしてください!



西村 静江さん (品川区)

生産者の皆さんはこれからも良い物をたくさん作ってください! 一方、若い人たちが活躍する場を作るのは消費者です。日本の農産物を私たちが守らなければ、若い人たちが農業を諦めてしまうかもしれません。だから、みんなで守っていきましょう!
職員の方には忙しい人が多いようですが、私たち組合員が企画する活動にも少し参加していただきたいですね。産地に一緒に行き、共に勉強し、生産者の思いを受け止めましょう!



豊田 邦子さん (世田谷区)

安全・安心を意識して手掛けている作物に、生産者の皆さんは誇りを持っていただきたいですね。職員の方は、会えば明るく元気に接して下さるので、その姿勢を忘れずお願いします。昨年の大震災を機に、自分たちの気持ちを直接的にも間接的にも生産者に伝える機会が増えたと思います。これからも私たちの気持ちを伝える機会を増やしてください。その応援の声を生産者、日本の農業を支え元気にしていくはずですよ。

組合員の熱い思いを、今度は職員へパトタッチ!



新春リレートーク「食の未来づくりフェスタ」で再認識!

日本の農業を元気にするぞお!!

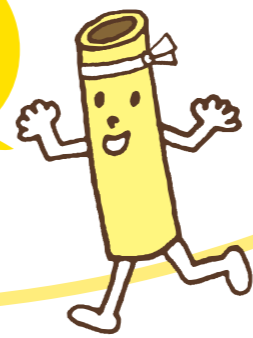
昨年11月5日に開催された「食の未来づくりフェスタ」。来場者4,000人超、会場内はどこも大盛況でした。一方で、安全・安心な食や農業について、影響が懸念される放射線についてなど、真剣に語り合う生産者・組合員・職員の姿があり、「日本の農業を元気にしたい!」とみんなで再認識。今年の『MOGMOG』は、そんなみんなの思い(決意!)を次世代を担う生産者と職員と組合員のリレー形式で紹介しながらスタートします!

農業は魅力ある仕事だと次世代に伝えたい!

農業をする祖父と父の背中を見て育ち、自分もその跡を継ぐのだと漠然と思っていました。実際に仕事をしてみると、その難しさをひしひしと感じています。仕事上は父は先輩であり師匠です。でも、衝突は年中です。お互い譲らない点は似ています(笑)。それでも見習うべきところは見習いますよ。
就業して16年。野菜は一生懸命手をかけても思い通りにならないことがしょっちゅうです。未熟なんです。まだまだ父にはかなわないですね。ただ、ただ張って父には追い付けないかもしれない。でも自分が作った物を皆さんが「おいしい」と言ってくれ、健康のお手伝いをしていてと思うとうれしいです。
農家の高齢化が進む中、東都生協の供給担当者には同世代の人が多くいます。だからでもないですけど、単なる配達ではなく作物と一緒に僕たちの心も届けて

ほしい。そして組合員の皆さんには食べた感想をストレートに返してほしいんですよ。その感想が、励みにもなり勉強にもなりますから。若い自分たちがこれからの先頭に立ち、どんな物が喜ばれるのかわかりませんが、とても大切です。インターネットやツイッターなども利用してお互いの意見をキャッチボールできればいいと思っています。
わが家には中学3年生の長男がいますが、農業高校を志望していて将来は継ぐつもりです。うれしい反面、厳しい仕事だけに複雑な思いです。でも農業は魅力ある職業だと自分たちの世代が下の世代に示さないといけない。そして、たくさん物がある時代に、自分たちが作った作物を選んでいただく方法を、自分たち「若い力」で考えていきたいと思います。

「長男が畑を手伝ってくれる。小遣いがあるけど…」と話すとき、うれしそうだったなあ。農業を次世代につなげる意欲は満々! その気持ちを組合員へパトタッチ!



新世代チャレンジプロジェクト =tomorrow= 「フード・アクション・ニッポン アワード 2011」入賞!

「登録1株マイトマト」「がまだすセット」などを送り出した、東都生協と産直産地を進める新世代チャレンジプロジェクト =tomorrow= が、「フード・アクション・ニッポン アワード 2011」の「コミュニケーション・啓発部門」で入賞しました。

新世代チャレンジプロジェクト =tomorrow=
若手(40歳未満)生産者が、産地間ネットワークを構築して、東都生協組合員・若手生協職員とのコミュニケーションを深め、独自商品の企画にチャレンジしていく取り組みです。

フード・アクション・ニッポン アワード
農林水産省が進める食料自給率向上に向けた国民運動「フード・アクション・ニッポン」の展開の一環として創設。事業者・団体などの優れた取り組みを表彰し、未来へ向け、安心しておいしく食べていく社会の実現を目指し、3回目となる今年度は、1,000余件の応募がありました。

食の未来づくりフェスタ

日本の食の未来へ向けた、熱い1日でした!

絆〜**き**と**ず**と**な**かま〜♥東都生協

「食の未来づくりフェスタ」では、午前10時のスタートから会場は熱気に包まれました。

100を超える産地やメーカーなど出店者の威勢のいい声と、

大いに楽しむ大勢の来場者と、その中を忙しそうに動き回る職員たち。

「来た人しか分からない!」この熱い雰囲気を『MOGMOG』の読者の皆さんに、特別にご紹介します!



フェスタのスタートはやっぱりソーラン節。威勢のいい踊りが会場を盛り上げます!

プロの包丁さばきで、あっという間にまぐろは解体。「まぐろの中はどうなってる?」と子どもたちは興味津々。

放射能講座では、重たい内容を優しく安全・品質管理部 新谷喜久米部長が解説。内容は真剣そのもの。

誰に何が当たる? クジを引く担当者も、番号を聞く会場の人たちもドキドキ!

生産者と組合員の距離がグンと近くなるトーク!

11:00~12:30 足立東支部《JAみどりの、ユニオンソース(株)》、社会委員会《JAやさと、(農)房総食料センター》、東京南部生協《JAやさと》

13:30~15:00 練馬東支部田柄ブロック《JAつべつ、(有)須黒食品》、商品委員会《千倉水産加工販売、加工連、(株)サラ秋田白神》

生産者・メーカーと直接話ができるフェスタ de トークは、組合員にとって「聞きたいこと・伝えたいこと」が言える場。また、生産者・メーカーを身近に感じられるので、組合員が楽しみにしている企画です。組合員は商品説明や苦労話に熱心に耳を傾け、生産者・メーカーは組合員からの質問に真摯に答え、両者の商品への熱い思いがあふれ、アツという間に時間が過ぎました。どの生産者も、「無添加や国産にこだわった商品を東都生協を通じて組合員に提供し、組合員から“おいしい”と言われるのが何よりの励み」と話していたのが、とても印象的でした。参加者からは「東日本大震災以降、放射能汚染が心配で商品選びに苦心しているが、東都生協は独自の検査結果を逐一公表しているので、東都生協を信じてこれからも商品を買いたい」「生産者とじかに話ができてよかった。これからも商品に愛着を持って買いたい」といった意見が多くありました。

フェスタ de トーク (生産者・メーカーと組合員の交流)



販売エリア



「いつもの野菜がこんなに安い!!」。フェスタって楽しい!

「いかがですかあ!」「それ、ください!」まさに「市場」の熱気、販売エリア!!

開場と同時に大勢の人が一目散に向かったのが、販売エリア。今回も産地・メーカーのご自慢の商品が所狭しと並べられ、買い物袋を提げた人々と出店者が楽しく会話をしながら買い物をする様子があちらこちらで見られ、活気にあふれていました。日常ではなかなか体験できない対面式の買い物は、まさにフェスタならではの…。

また、普段商品案内で目にしていないおなじみの商品がお祭り価格とあってあっという間に完売になることも続出(お財布の口もつついづつ緩みがち!!)。また試食やサンプルの配布もあり、新しい味の発見にもつながりました。

そして、生産者とのうれしい再会もあり、「収穫体験ではお世話になりました」「またいつでも来てくださいね」と、組合員の心はずでに産地にひとつ飛び、という感じ。

産地・メーカーと組合員が共に集う楽しい場所、一番活気あふれるコーナーでした。

食育コーナー

おいしく学べる、食の未来づくり・食育

食育コーナーでは「チリメンモンスターをさがせ」と「ミルクで科学」と2つの体験が30分ずつ交互に行われ、参加者の表情には発見と納得の様子が見られました。「チリメンモンスター」とは、出荷前のチリメンジャコに混ざっているチリメンジャコ以外の生物のこと。通常それらをきれいに取り除いて、店頭に並びます。チリメンジャコの中から、ピンセットでチリメンモンスターを探すがゲームでは、小さい子どもからおとなまで夢中に。「ミルクで科学」では、千葉北部酪農協の生産者がクイズを出し、子どもたちも楽しく「牛と牛乳」を知ることができたようです。オリゴ糖の入った牛乳にレモン汁を入れ、さらさらの牛乳が滑らかなヨーグルトに変身! 実験後はヨーグルトをおいしそうに飲んでいました。

会場の壁には、「たべる*たいせつキッズクラブ」の教材や子どもたちからのお便り、お料理や収穫した野菜などのイラストを掲示。色を塗ると野菜が浮き出てくるクイズ形式の色塗りコーナーもありました。

チリメンモンスターを探せ



虫めがねでのぞくとかわいいモンスターがいっぱい!

牛のおっぱいはいくつある? 牛の胃はいくつある?



ミルクで科学
おいしい八千代牛乳を出してくれる「牛さん」のことが、よ〜く分かる!

「きずな」を感じた、被災地応援コーナー

東日本大震災から約1年。被災地応援コーナーでは東都生協が行ってきた支援活動の報告やその後の産地・メーカーの復興に向けての様子がパネルで紹介されました。また、いわて生協のプライベートブランド商品をセットにした東北商品はたくさんの方に注目されました。メッセージボードにも「ガンバレ! 東北」など胸が熱くなるたくさんの言葉・言葉・言葉。販売エリアの一角でも「皆さんのおかげで再開することができました」「よく頑張ったね」との会話も飛び交っていました。

復興にはまだ時間がかかりますが、東都生協ではこれからも産地・メーカーを応援していきます。信頼と固いきずなで結ばれた、ちょっとほろっとする、あたたかいコーナーでした。



被災地応援コーナー



「やっぱりおいしい」、再開してよかった、この味!

交流・参加コーナーも熱い!

わらを使ってリースづくり。いつも以上に(!?) 真剣に挑戦!

100グラムの大豆? コップのどれくらいかな~。

真剣な顔して、利きビール。「いつも飲んでただけどなあ~」

おとな子どもも、一文字一文字心を込めて被災地の皆さんへ…。



手品を間近に見た子どもたちも楽しい時間。

「お母さんは、買い物してていいよ」

果物の食べ比べ あっちもこっちもおいしいね!

「東北」が詰まった袋は、人気商品となりました!

今月の
おすすめ

登録商品 まいとどちゃん

見かけはかわいいけれど、実力派。
まいとどちゃんはあなたのくらしを応援します。

とっても便利だね、まいとどちゃん



素材のウンチク
15 まいとどちゃん

公募により命名！

「まいとどちゃん」は、昨秋にスタートした新しい登録商品のしくみです。7月のチラシで商品登録開始のお知らせと愛称の募集をしたところ、107人の組合員さんからご応募いただきました。聞いただけで登録商品の特徴がイメージできて、皆さんにすぐ覚えてもらえる名前」という点を考慮しながら、共同購入事業部内で選考。渋谷区の組合員が考案した「まいとどちゃん」に決定しました。

デザインへのこだわり

「まいとどちゃん」の愛称を送ってくださった組合員さんの応募用紙には、かわいい「トド」のイラストも添えてありました。そのアイデアを元に、さらに組合員に親しみを持っていただけじゃなく、ラクターへ、公募担当の女性職員が完成させました。担当職員は「手をパタパタさせたところが気に入っているのだとか」。

毎日必要な36品目、勢ぞろい

「まいとどちゃん」の登録商品は、乳製品11品目、パン5品目、卵5品目、ハム・ソーセージ類4品目、豆腐4品目、納豆4品目、サポート3種と全部で36品目がラインアップしています。毎日のくらしに欠かせない、人気の商品ばかり。現在、登録組合員は約15,000人ですが、もっともっと多くの皆さんのお役に立ちたいと思っております。



若者広場

若い力は原動力！と実感できた若者広場

「若者広場」では、主に20～30代の若年生産者と東都生協職員が直接顔を合わせて、これからの産直について意見交換をしました。

午前10時30分の開会あいさつの後、「生協の抱えている課題」について、まず商品部商品企画グループの宮田進職員が説明。参加者は東京都の家族類型別世帯数や家計消費支出の大きな流れを把握しました。次に、東都生協組合員の家族構成とライフステージ別の傾向についての話があり、中でも末子が小学生以下の世帯と子どものいない世帯の購入傾向を特定の商品と比較したスライドを使って、数字で裏打ちされた実態が報告されました。

説明後は、各グループに分かれてディスカッション。自発的に進行役が現れ、次第に話し合いは白熱していきましました。普段はお互い仕事の中での付き合いで、ゆっくり話もできないため、こういう機会が持てたことに対し、「立場の違う人の意見を聞くことができて良かった」と多くの参加者は大満足の様子。また職員からも、「普段の職場環境では知り得ない情報を得ることができた」「自分が考えていた現状と実際とは違っていたことを認識できて良かった」との感想がありました。

発表の場面では、IT世代ならではのアイデアが満載で、ホームページの新しい企画やツイッターを活用した利用推進の提案など、若者らしい意見も飛び交いました。どのグループも東都生協と未来の日本の農業にける熱意の伝わってくる内容ばかり。お互いに触発された有意義な「若者広場」の交流でした。

【参加者の声】「自分のマンネリ化を防ぐ意味でも来年も参加したい(生産者)」「東都生協はまだまだ可能性を秘めていると実感できてうれしかった(生産者)」「生産者の熱い気持ちを受け止める覚悟を持って仕事をしよう。自分も頑張る(職員)」「それぞれがさらなる発展のために頑張っていきたいと思います(職員)」



コミュニケーションも「フェスタ」の魅力！



生産者・組合員・職員の熱い思いが詰まった「新春リレートーク」、たくさんの組合員が来場し生産者との交流を楽しんだ「食の未来づくりフェスタ」。「食の未来づくり運動」に取り組む生産者・組合員・職員の姿からたくさんの元気を得た方も多と思います。2012年度の「食の未来づくり運動」も皆さんの元気で推し進めましょう。

庭野吉也理事長、
新年のあいさつ



東日本大震災の発生からはや10カ月が経過し、新年をとて複雑な気持ちで迎えることとなりました。同時に、何気ない普段どおりのくらしが当たり前のようにできることが、いかに幸せであるかをかみしめる年頭となりました。被災地に思いをはせれば、ご家族を失った方やご自宅を失った人、生まれ育った土地に帰れずに避難生活を余儀なくされている方々が、今なお大勢いらっしゃることを忘れることはできません。

昨年来、東日本大震災からの復旧・復興に向け、東都生協も総力を挙げて支援しようとして、支援活動を今後の事業と活動の中に位置付けました。募金はむろんのこと、商品企画による支援や人的・物的支援などに積極的に取り組んでいます。組合員の皆さまの多大なご協力に対し、あらためて感謝申し上げます。

東都生協は今年、2020年ビジョンと中期計画の策定を予定しています。将来はこんな生協であってほしい、みんなでこんなことに取り組んでみたいなど、多くの声をお寄せください。また、昨年も「食の未来づくりフェスタ」を開催し、日本の食を守る活動に一層力を入れて取り組みましたが、今年も東都生協の原点である産直・国産にこだわり、私たちの食卓の安全・安心を維持していきたいと思っております。

私たちのくらしを取り巻く環境は、年金減額や消費税の増税論議、社会保障制度の見直しなど、厳しさを増すことが予想されます。こうした時代だからこそ、協同組合は頼りになる存在として力強くその役割を発揮していかなければなりません。折しも今年「国際協同組合年」です。組合員の皆さんにとって東都生協がくらしの役に立つ存在となるよう精一杯の努力をしていく所存です。組合員の皆さまにとって幸多い一年であることを祈念して、年頭のあいさついたします。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

アテンション・プリーズ!!
 あなたがお正月に必ず作るお料理、お家に伝わる新年の行事などありますか？

裏表紙の間違った探しの答えに添えてお送りください!!

今月の
 おすすめ
 MILK

「登録商品 まいとどちゃん」は、毎回ちゃんと自動でお届け!

一度登録するだけで「私のお気に入り商品」が自動で届く「まいとどちゃん」。便利でお得なだけでなく、生産者やメーカーもサポートできる「一石三鳥!」の「まいとどちゃん」をご紹介します。



利用者からのおすすめコメント



まいとどちゃんは商品案内よりもお得に購入でき、毎週必ず注文するお気に入り商品がある人には良い制度。私のオススメは八千代プレーンヨーグルト。今後、インターネット注文のカードにまいとどちゃん商品が自動で入ったり、お休みもカード画面で簡単にできるようにしたいな。
 (葛飾・墨田・台東支部 水元金町ブロック 野村奈津子さん)

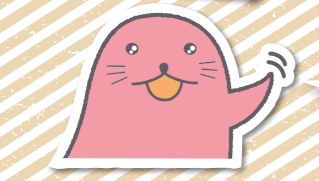
ウィンナーが11円、牛乳が6円値引き! 家計にうれしいです!

グリーン・サポート、東都みのりサポート、フルーツ・サポート、牛乳、たまごを登録。登録前は牛乳や卵を注文し忘れ、途方に暮れてしまうこともありましたが...

保育園・小4・中2の3人の子供がいる我が家では、まいとどちゃんが活躍。商品案内に企画がなくても毎週届き、しかもちょっとお得なのがうれしいです。お気に入りには鎌倉ハムのウィンナーとロースハム。今後、他の登録商品と一本化できるともっと良いですね。
 (ニュータウン支部 せいせきブロック 武熊明子さん)



注文忘れの救世主まいとどちゃん! インターネット注文の「お気に入り商品」に入れていた物がほとんど入っていたので、早速登録しました。これを機に東都納豆に変えたらおいしくて、素材へのこだわりも再発見。ちなみにまいとどちゃんの名前は、同じブロックの人の命名なんです。
 (目黒・渋谷支部 渋谷北ブロック 川上清美さん)



まいとどちゃんのキャラクター、タマのヒットでは? わかりやすい!

たとえば朝食メニューが「まいとどちゃん」で揃います。



糸内豆入りオムレツ

【材料(1人分)】
 産直たまご …… 3個 サラダ油 …… 大さじ1
 東都極小納豆 …… 1パック 塩 …… 小さじ1/4
 東都つゆ …… 大さじ1

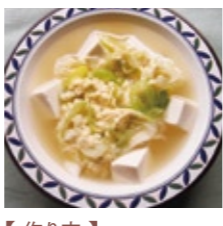
【作り方】
 1. 卵は割りほぐし、東都つゆを加えて混ぜる。
 2. フライパンにサラダ油を熱し、1を一気に加え、強火で全体を大きく手早く混ぜ、半熟状になったら、納豆を載せてオムレツ型に形を整えて皿に盛る。



ウィンナーのチーズドッグ

【材料(6個分)】
 マイルドポークウィンナー …… 6本
 CO・OPバターロール …… 6個
 チーズ …… 80g

【作り方】
 1. ウィンナーを3分ゆで、切り目を入れる。
 2. バターロールの中央に切り目を入れ、1をはさむ。
 3. 2にチーズをのせて、オーブントースターで2~3分焼く。



豆腐の簡単スープ

【材料(3人分)】
 東都きぬごし豆腐 …… 1丁 中華スープ …… 小さじ2~3
 長ねぎ …… 1本 塩 …… 小さじ1/2
 産直たまご …… 2個

【作り方】
 1. 長ねぎを斜め薄切りに、豆腐は小さく切り、卵を溶いておく。
 2. 鍋に水450ccを入れて沸騰させ、中華スープを入れる。
 3. 2に1の長ねぎと豆腐を入れ、沸騰したら弱火にし、塩で味を調える。
 4. 溶き卵を鍋肌に沿わせるようにして入れ、半熟になったら火を止める。

東都生協のこだわりがここにも!



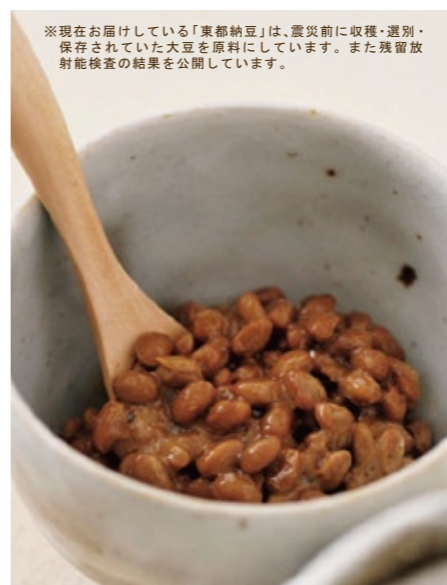
マイルドポークウィンナー

鎌倉ハムクラウン商会の商品の中でも一番人気。原料は新鮮な国産豚肉。発色剤、化学調味料、合成添加物、卵白や乳などのつなぎも不使用! ほかにないこだわりのウィンナーです。

【メーカーより】
 (株)鎌倉ハムクラウン商会 営業部 内田正仁さん
 「添加物もアレルゲンも使わないハム・ソーセージ」を、試行錯誤して作り上げました。安心して召し上がっていただける商品をお届けしたい! 強い思いを守り続けます。



工場の内部と従業員の皆さん



※現在お届けしている「東都納豆」は、震災前に収穫・選別・保存されていた大豆を原料にしています。また残留放射能検査の結果を公開しています。

東都納豆

「東都納豆」「東都極小納豆」の大豆は、納豆に適した品種だけを、農業をなるべく使用せずに作っています。一般の納豆とは違う「大豆へのこだわり」を、1人でも多くの人に知っていただきたいです。
 (JAやさと・谷田部貞雄さん)



谷田部貞雄さん



大豆畑



八千代牛乳

乳質の高さは千葉県トップレベル。75℃15秒殺菌だから成分を損ないません。1973年から飲み継がれてきた搾りたての味をお届け!



東都きぬごし豆腐

組合員の声をもとに(有)須黒食品の協力で完成。契約栽培の大豆「フクユタカ」を原料に、天然にがり100%、消泡剤不使用、1985年からのロングセラーです。

職員からのメッセージ

利用する・作る・届ける3つの約束

東日本大震災後、東京中から物が消えても、多くの取引先のおかげで商品をお届けすることができたのは、生産と流通と消費に人の絆があるからだと感じました。
 東都生協の理念は「組合員のいのちとくらしを守る」こと。1986年のチェルノブイリ原発事故を機に放射能検査器を導入し、現在まで検査を継続してきたのは、安全・安心な商品をお届けするためです。
 「登録商品まいとどちゃん」は組合員のみなさんの「利用する約束」。これに添って緊急時も優先して供給することが、東都生協の「届ける約束」。「利用する約束」から「作る約束」へ、信頼は生産者やメーカーのみなさんの物づくりへの励みになります。
 「登録商品まいとどちゃん」で東都生協といっしょに、食の未来づくりに参加してください。

まず1品登録してきましょう!



- Q1: まいとどちゃんの対象商品は増えますか?
 A1: 多くの組合員さんに利用いただけるように、増やしていく予定です。
- Q2: インターネット注文では、登録商品がカートに入らないので、注文が重なったり合計金額に計算されず困ります。
 A2: 二不便をかけています。インターネット注文でも登録商品を確認できるように準備中です。
- Q3: OCR 注文書に登録した商品に印がついていて、お休みの時にチェックするだけなら便利です。
 A3: すぐにはできませんが、検討課題としています。
- Q4: 登録牛乳など今までの登録は、どうなりますか?
 A4: 「牛乳・たまご」はまいとどちゃんに自動で統合しました。「米・牛肉」などまいとどちゃんにない商品は今まで通りです。また「ひたち野穂の香卵」は隔週企画が含まれ、入れられませんでした。
- Q5: まいとどちゃんのチラシを紛失してしまいました。
 A5: 配送センターまでご連絡ください。供給時にお届けします。

ちょっとQ&A

◆全商品お休み
 注文書の「682」に「1」を記入。
 単品・とも全商品も、1回ずつお休みできます。

八千代牛乳2本を1回お休みなら107670数量1



◆単品ごとのお休み
 注文書に「○○○○○○○(お休みコード、6ケタ)と「1」を記入。
 商品ごと「コード」は違います。

◆数を追加するとき
 「登録コード」と追加数を記入。
 ↓次週から、元の数量にプラスした数をお届け開始。



八千代牛乳2本を登録なら098310数量2



◆登録
 注文書に「登録コード(6ケタ)」と数量を記入↓次週からお届け開始。

「登録商品 まいとどちゃん」のしくみ

第2回「調布センターまつり」、 雨に負けず、大盛況!

深大寺・多摩・調布の3支部が主催した「調布センターまつり」、第2回は10月22日に開催。生産者、組合員、職員が交流を通じ「絆」を深めることを目的に、朝早くからテントを設置した職員、お手伝いのブロック委員、参加して下さった生産者やメーカーの方々など、みんなで力を合わせました。

最初はあいにくの雨模様でしたが、午後雨が上がり、売り声にも勢いが出て、来場した子どもたちの歓声も賑やかに! 千葉北部酪農農協の「アイスクリーム」、JAみどりの「お米のすくい取り」、キッズコーナーの「お菓子釣り」など、東都生協ならではの余興も大人気でした。東京に越してきたばかりという参加者は、「生協ってどこも同じかと思っていたのに」と感激していました。

生産者、メーカー、職員との会話を笑顔で浮かべ、いつまでも回遊しながら楽しんでいる参加者の姿に、主催者一同疲れも吹き飛んで...うれしいお祭りになりました。



産地・生産者を買って 応援しなければ、と痛感!

11月9日、中野支部・中野ブロックは、小田原有機農法研究会への交流訪問を実施。現地では、代表者の柏木郁朗さんから産地の様子や取り組みのほか、みかんとキウイフルーツの収穫について説明を受け、その後ルンルン気分できり取り収穫へ出発! キウイフルーツは簡単に片手でぐることができますが、追熟が必要なんだそうです(だから、その場で食べられずに残念!)。人手不足の柏木さんのお手伝いになればと思ひ、みんなで援農も体験。柏木さんのご苦労がよく分かりました。

山口結花子委員長は「一生懸命作物を作る幸せを日々感じている」「大事に育てた作物だから、放射能をめぐる風評に負けないで、これからも自信を持って出荷していく」という柏木さんの言葉に、私たちは買い支えることによって、産地を応援しなければ、と心に決めたそうです。参加者一同、生産者の心意気を知る有意義な一日となりました。



秋空の下、東京下町 「てんこ盛りツアー」満喫!

新宿支部・西戸山ブロックは、10月26日、墨田区のみヨシ石鹸(株)を訪問しました。貸し切りバスを使わずに各自が都バス一日乗車券を購入、行きは車窓から都会の秋景色を楽しみ、工場見学後は足を伸ばして東京スカイツリーを訪ねるという「てんこ盛りツアー」。落合・新宿北ブロックにも参加者を募ったため、総勢18人、2班に分かれての工場見学となりましたが、メーカーは歓迎してくれました。

工場ではせっけんについてしっかり学習。昼食・懇談後は活発に質疑応答が行われ、参加者からは「体に良く自然にやさしいみヨシ石鹸のこだわりが分かった」「100年以上せっけんを作っている姿に感動」「合成洗剤とは全く違う良さ、人にもすめたい」「コマースに感わされず自分に合う商品を選べる、賢い消費者となるためのヒントをもらえた」など多くの感想がありました。

みヨシ石鹸(株)訪問後は、ほぼ全員でスカイツリーへGO! 下町の旅を満喫しました。今回のブロックの枠を越えた企画は、いろいろな方と交流できて大変有意義なものでした。今後、新しい企画の形になるかもしれません。



総代の役割を再確認! 熱心な質問に時間もオーバー。

11月11日、豊島区立労働福祉会館にて、板橋・豊島支部総代オリエンテーションが開かれました。平日のため参加総代は9人と少なめでしたが、初めての参加者も2人いました。

はじめに、おすすめ商品と総代としての抱負など自己紹介を行い、次に「総代のとびき」を声を出して読み、あらためて総代の役割について確認しました。質疑応答の後には、新商品のケーキやお菓子を試食。「中村紀子副理事長に理事選挙のことや、組合員参加・参画スタイル案への質問・意見などに直接答えていただき良かった」という出席者、「ブロック委員会に持ち帰り、総代以外の委員さんにも説明したい」というブロック委員長さんなど、意識の高さがうかがえました。主催者で支部運営委員長の関有紀さんは、「欠席した総代、特にブロック委員以外の人に任務をいかに分かりやすく伝えるかが課題ですね」と語っていました。



北の大地で日本の食を支える生産者たち 「JAつべつ」視察



食の安全・安心推進グループでは、9月8日〜9日の2日間、「JAつべつ」を訪ねました。

JAつべつのある津別町は北海道の東部に位置し、町の総面積の87%が山林である山間地。冬は極寒のため、農作物の作



玉ねぎ選別作業中

付期間が半年しかないという厳しい自然環境の中で、環境保全型地域農業を実践しています。

参加者は、他県では見られない広大な農地に驚くとともに、北海道の厳しい環境の中、元気に明るく自信を持って農作業に取り組み生産者の姿に感動しきり。

交流を通して、「安全・安心な農作物を作り、その農作物を組合員に届けることで、日本の農業を守っていく」という気概を感じることができました。



生産者から、おいしいかぼちゃの見分け方を教わりました。

10月28日、組合員活動委員会はJAみどりの田尻産直委員会との「おしゃべり商品交流会」を開催。生産者との交流を通じて商品の理解を深め、商品の良さを伝えることが目的です。



「田んぼの生き物調査プロジェクト」を解説する、田尻産直センター・阿部晃さん。

まず「JAみどりの」の取り組みについてスライドを用いた説明の後、田んぼの生き物調査プロジェクトや「無洗米まなむすめ」の2種類のお米の食べ比べ。

その後、田んぼの生き物調査プロジェクトや「無洗米まなむすめ」の2種類のお米の食べ比べをしながら、楽しく交流。

宮城県の産地とお米を応援!
「おしゃべり商品交流会」

「宮城県の産地とお米を応援」という産地の現状を知るメーカーならではのお話でした。生産者の苦労が伝わる内容に、自分たちができることをしていかなければと痛感。参加者からも「風評に惑わされず、作り手のことを考えて食べ続けることが大事だ」と分かったなどの感想が多聞かれました。



震災後のご苦労、前向きに頑張る生産者について語る、伊藤明男会長。

知っておきたい! 用語解説
田んぼの生きもの調査プロジェクト

東都生協、JAみどりの田尻支店、大崎市田尻総合支所などから構成。2009年12月に「たじり田んぼの生きもの宣言」を発表。生物多様性によって人や田んぼが支えられており、その産直米の利用を通じ生きものと環境を守ることにつながる活動を展開しています。

商品ワンポイントアドバイス

放射性セシウムを
取り込まないようご注意ください

11月8日、商品政策検討委員会主催で日本大学歯学部講師で放射線防護学が専門の野口邦和先生を講師に招き、放射生物質・放射線の学習会を開催しました。

放射性ヨウ素の半減期は8日間のため、原発事故から10カ月後の現在はほぼ消滅しています。気を付けなければならぬのは放射性セシウム。今回の事故では、セシウム137とセシウム134が1対1の割合で放出されました。半減期はセシウム137が30年、セシウム134が2年。二つの放射線量を計算して合算すると3年で半分、6年で1/3、10年で1/4以下に減ります。また、地下水の汚染については、セシウムは土壌と強固に結合するため、土壌5cm以内に90%、10cm以内に99%が吸着され、地下水の汚染はまずありえないとのことでした。

放射性セシウムに汚染された食物を取り込まないためには、水に溶ける性質を考え、切って水に触れる表面積を多くし、よく洗うこと。湯に溶け出す性質もあるので、茹でるのも有効です。米の場合、ぬかの部分に70%蓄積されるので、気になる方は白米を食べるほうが良いでしょう。このお話でした。参加者からは「少し不安が減った」「また開催してほしい」との声をいただきました。

商品政策検討委員会



「ひとこえ生協」に寄せられた質問にお答えします！

Q 2011年収穫の大豆で作られる豆腐や納豆など、大豆製品の放射能の数値が心配です。正確な情報が知りたいのですが。

A 納豆、豆腐、麺類、パン類などの原料については、2011年産の使用前に残留放射能検査を随時行っていく予定です。また、これまでのゲルマニウム検査器のほかにNaI検出器1台とサーベイメーターを新規購入し、検査数の拡大を予定しています。現在、公表できる数値は公定検査として認められているゲルマニウム検査器での結果のみですが、他の検査器で高い数値が見られるような場合には、再検査をゲルマニウム検出器で行って公表します。

なお、「やさとの納豆」の使用大豆は、食味安定などの目的から約1年分の在庫を用意して製造しています。2012年までは2010年産大豆を使用します。

Q 豚もつ肉の素材を扱って下さい。
A このたび商品委員会で確認し、ポイル済み冷蔵商品「国産ソフト豚白もつ」の取り扱いが決定しました。この商品は、豚もつ（小腸・大腸）をポイルして柔らかく仕上げた商品で、煮込み鍋、炒め物などに使用できます。企画予定は2月3回です。ぜひご利用ください。



をする、という従来からの方法でキャンセルをお願いしています。「登録米」と「青果ボックス」は利用人数による作付け計画や販売計画を立てている関係で、数量の変化を東都生協が適時把握しておく必要があります。そのため、注文書でキャンセルできるようなシステム変更は見送っています。

Q 9月1回の「フルームきゅうり」は、口に入れた途端に農薬のにおいがして食べられませんでした。

A ご迷惑をお掛けしました。きゅうりなどのウリ科の植物には、苦味物質のククルビタシンという成分が含まれており、窒素過多、低温、日照不足、肥料不足などが原因で、それが異常な食味やにおいを生成することがあります。今回は気温差が影響しククルビタシンが強く出たものと思われ、その後、産地での生育状況の確認や、適期収穫の徹底を行って再発防止に努め、満足いただける青果物をお届けできるように努力していきます。



Q 「産直たまご10個入り」を10年以上注文しています。最近、黄身の色が白っぽく、料理してもおいしそうに見えず困っています。

A ご心配をお掛けしました。「産直たまご10個（卵殻）」では、飼料内容の変更もなく、週1回の抜き取り検査でも黄身の色に変化はありません。今回のご指摘は「ひたち野穂の香卵10個」のことかと推察します。この

商品は、とつものこし飼料の代わりに国産の飼料米を与えて育てた鶏の卵で、黄身の色は白っぽく薄いレモンイエローです。お手数ですが注文商品をご確認ください。



Q 東都生協の自主的な放射能検査を心強く思っていますが、最近、検査を通った米・牛乳とそうでないものを混ぜてしまう業者がいるといううわさを聞きました。東都生協では、米や牛乳についての管理・対策をしていますか。

A 米はJAS法によりブレンド比率の記載が義務付けられており、違反すれば罰則が適用されます。また東都生協では毎年、産地と栽培計画書・取り扱い数量や価格について協議し、産地側も東都生協との産直提携の意義を十分理解した上で取り引きを行っています。さらに東都生協での供給米の抜き取り検査（品種・重金属・年産）について産地も承知しているため、故意の混入は考えられません。なお、全銘柄の残留放射能検査では、現在「検出せず」（検出限界値約2ベクレル/kg）の状況です。

一方、行政による牛乳の放射能検査は集乳センターで行いますので、その後故意に混ぜることは不可能ではありません。しかし、東都生協では千葉北部酪農農業協同組合の八千代牛乳以外の取り扱いはなく、原乳生産者も特定され、生産者自身が工場記録などをチェックできる体制にあります。さらに東都生協では毎週、放射能検査を実施しており、推移に変化が見られないことなどからも、安心してご利用いただけると考えています。



クイズ応募はがきで見つけた、コメント紹介

「MOGMOG」は、毎回参考になる記事が多いので、楽しんで読んでいます☆
世田谷区 青木恵

風評は人の無知・勉強不足が原因ではないでしょうか。もっと知識を身に付けてはいけませんね。
日野市 本多木綿子

日本に起こっている不景気、大震災…。これには何か意味があるはず。自分にできることを考え、心を動かし、悟れるように成長したいと思います。
江戸川区 貝塚祥乃

なるべく国産の品物を使って、無駄のない料理を心掛けたいと思います。
小平市 松本恵美子

日本農業を持続的に発展させるためには、都市に住む私たち消費者がたゆまず国内の生産物を大切に食べ続けることだと思います。
小金井市 星野弘子

日本の農業を脅かすTPP参加に反対し、安心して食べられるものを頑張っている生産者の方々に応援することです。
日野市 佐藤晃

作った人に、おいしいものは「おいしかった!」、そして気になることも率直に伝えたいと考えています。
小平市 佐藤節子

国産の商品を利用し、特に食材の自給率を少しでも高めたい。
町田市 松本純子

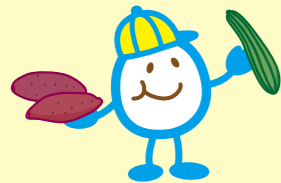
今までいろいろなことに無関心でした。子どもが生まれ、東都生協に入り、震災…。震災以降、無関心は罪だと思いました。「国・食・未来」のこと、真剣に考えています。
調布市 佐俣佳子

宮古市の私の実家も津波で流されました。私にできることは、進んで東北の生産物を消費することくらいです。東都生協でもたくさん扱ってください!
青梅市 佐藤澄子

めったに手に入らない、かわはぎの薄づくりが東都生協に登場! とてうれしいです。
大田区 倉掛由紀子

料理にもっと野菜を使いたいのですが、フルタイムの仕事なので、手間のかかる野菜料理はなかなか…。野菜中心の冷凍食品の種類が増えるといいなあ。
調布市 渡辺あかり

安全な食品や安心できる産地の食材を、未来の子どもたちに食べさせてあげたいです。
北区 中村時代



うすのススキメニュー 「鶏肉料理!」

わが家は鶏肉大好き家族! 特に夫は羽が出て飛べるようになる!? と思うほど…。から揚げ、バーベキューチキン、甘辛煮、手羽先、親子などと、東都生協の冷凍鶏肉はなんでもできるので便利。わが家は冷凍鶏肉を欠かしたことはありません(笑)!
世田谷区 青池英子

好きなメニューは「手羽先のさっぱり煮」。お酢で煮て甘辛く仕上げます。軟骨もポロリと取れるくらい軟らかく、とてもおいしいです。ほぐしてお弁当のおかずにもピッタリです!
多摩市 松本幸二郎

筑前煮が大好きです。子どもたちも好きなので、大きな鍋で作っても二日ほどでなくなります。
中野区 清時加代子

東都生協くらしの助け合いの会 兼 ほっとはんど

「ほっとはんど」は、助け合いの精神に基づき、手助けを必要とする組合員への家事援助活動を行っています。
 ◇活動内容: 保育、料理、掃除、洗濯など、誰にもできる家事援助
 ◇活動時間: 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時
 ◇活動地域: 都内全域
 ◇依頼内容や地域によりお応えできない場合もあります。ご不明な点はお問い合わせください。パンフレット請求可。
 ◇年会費: 1000円 返金不可。会のしくみをご理解のうえ、お申し込みください。
 ◇希望の会員種別のコードをOCR注文書の特別企画品注文欄に記載してください。

援助をする会員登録コード	365955	で	1	です。
援助を受ける会員登録コード	365963	で	1	です。
賛助会員登録コード	365971	で	1	です。

問い合わせ【ほっとはんど事務局】
電話 03-5374-4748

10月のわたしたち

2011年10月20日現在 ※[]内は前年比

組合員数	231,922人	[100.4%]
加入	13,174人	[85.5%]
脱退	9,805人	[82.3%]

総事業高	20,424,088千円	[100.8%]
共同購入事業	19,626,546千円	
店舗事業	128,471千円	
弁当配食事業	18,231千円	
生活文化事業	176,782千円	
その他事業	474,058千円	

出資金	7,130,401千円	[99.7%]
一人あたりの出資金	30,745円	[99.3%]



新年、明けましておめでとう
ございます。

東日本大震災からまもなく1年。「前を向いて進むしかない」と、少しずつ確実に、時間とともに前を向いて復興している被災地。力強いエネルギーが遠くに住む私たちにも伝わってきます。

今月号の「リレートーク」や「若者広場」の原稿を担当し、若い生産者と職員のリアルな声を聞く機会を得ました。国内では高齢化、環境問題や風評、世界に目を向ければ日本の農業の立ち位置が常に問われている状況下ですが、その中で日本の農業を活性化させようと真剣に考える若い生産者は確実にいました。それを支える東都生協の若い職員も少なくないことを知りました。東都生協の若い力は震災後も前を向いています。もはや「進むしかない」のです。

今まで通り、私たち組合員は老若男女を問わず、東都生協の商品で食卓を飾り、食で復興を支え、日本の農業を前進させていきましょう。

(M・S)

今後の定例理事会日程予定
1月26日(木)、2月23日(木)、3月22日(木)

- 各部署業務報告 ●洗びん事業関連報告 ●組合員活動委員会報告 ●商品活動関連報告 ●2011年度 第1回総代会議 テーマ設定と会場等確認の件 ●理事懇談会開催の件 ●常任理事会決議事項報告 ●東京電力福島第一発電所事故による放射線物質問題への対応と考え方 No.2の件
- 「これからの組合員参加と参画のスタイル案」今後の進め方確認の件
- 「報告事項」
- 2011年7月度決算概況報告
- 各部署業務報告 ●洗びん事業関連報告 ●組合員活動委員会報告 ●商品活動関連報告 ●2011年度 第1回総代会議 テーマ設定と会場等確認の件 ●理事懇談会開催の件 ●常任理事会決議事項報告 ●東京電力福島第一発電所事故による放射線物質問題への対応と考え方 No.2の件

理事会報告(抜粋)

●監事会だより

監事会は、第37回通常総代会に2011年度監査報告書を提出しました。2011年度は、年間4回の会計監査、年間2回の業務監査を行うほか、いくつかのセンターや部署の監査を予定しています。また、今年度より日本監査役協会に加盟し精度を上げた監査活動を目指します。さらに理事長と専務理事との懇談、公認会計士との懇談などを行っていきます。

2011年度上期に監査を行った部署 (2011年4月以降9月まで)

【業務組織】
杉並センター、拡大推進部、管理部システム開発グループ・システム運用グループ

【理事のマネジメント状況】
総代会議、組合員活動委員会、理事懇談会 その他、機関会議(総代会、理事会)、常任理事会に出席しました。

MOGMOG コラム

新セットセンター稼働!!

～より高品質な商品をお届けします～

冷蔵・冷凍・ドライ・青果…多様な商品を最適な温度で管理、箱詰めを行っているセットセンター。昨年秋、東都生協は品質と生産性の向上を図るため物流全体の仕組みを再編、5つあったセットセンターを2つの大規模施設に集約しました。

「八潮物流センター」(埼玉県八潮市、約7,000坪)では、常温のドライ・パン・家庭用品など約1,900品目もの商品のセットが可能。併設の新配送センターでは、配送トラック30コース分の地域も受け持つことができます。さらに、太陽光発電システムを設置。年間約1万kwの電力で、配送センター、大規模災害時の非常用電力をカバーします。

一方、冷蔵・冷凍・青果など冷却が必要な商品、約300品目のセットを行うのが「新座物流センター」(埼玉県新座市、約3,000坪)。温度管理を強化し、アイスクリームなど溶けやすい商品には「冷凍ショーケース」という専用の保冷



設備も設けられました。東日本大震災の影響で2カ月遅れのスタートとなりましたが、2つのセットセンターは順調に稼働しています。これからも組合員の皆さんに、より高品質な商品をお届けしていきます。

夕食宅配の対象地域が広がりました!

練馬区(一部)、板橋区、北区の夕食宅配が始まりました

地域社会における福祉は、介護、医療、生活支援、住宅の4つの領域がありますが、夕食宅配はその内の一つ、高齢者の生活支援を目的とした新規事業です。

- ◆商品 「お弁当」5食2,700円、「おかず」5食2,850円(複数割引制度有り)
- ◆お届け 月曜日から金曜日まで、日替わりの献立で毎日お届けします(冷蔵商品)。
- ◆対象地域 世田谷区、杉並区、狛江市、練馬区(一部)、板橋区、北区

※お申し込み、詳細、対象地域などについては以下までお問い合わせください。
新規事業推進部・粕谷夕食宅配センター
0800-100-8070

食の未来づくり運動 || 私の宣言 ||

行動目標1

食費の5割以上は東都生協の商品を利用し、食卓から日本の農業を応援しよう

行動目標2

年に1度は、生産者との交流や生産を支援する取り組みに参加しよう

行動目標3

1人が5人に地域で「食の未来づくり運動」を伝え、その輪を広げよう

社会委員会主催の学習会

「TPP(環太平洋経済連携協定)参加による日本社会への影響」

東都生協さんぽんずぎセンターにて(9月26日)開催
講師 東京大学教授・鈴木宣弘氏



学習会では、参加者が鈴木教授の説明を熱心に聞いていました。



TPPに加入するとどうなる?

TPPでは「例外なき関税撤廃」が原則ですが、日本の高関税品目は、すでに米や乳製品など1割程度です。米の自由化は米価の下落を招き、生産者は激減、日本の田園風景が荒廃する可能性があります。また、金融、保険、法律、医療、建築などのちとくらしに関わる多くの分野も自由化の対象となります。

強い農業になれば世界と競争できる?



所得補償をして関税を撤廃すれば競争力を保てるといいますが、その財源は不明確です。また、米国やオーストラリアは農家1戸当たりの耕地面積が日本の百倍・千倍と桁違いで、おおよそ競争になりません。低コスト農業に注目するだけではなく、適正価格での販売と、環境・生物多様性・動物福祉・産地の風景が守られた安全性の高い農産物の生産が重要です。

TPPは食の未来づくり運動に影響する?



日本の食料自給率は40%、TPP参加で自給率のさらなる低下が心配です。また食品の安全基準などの自由化も交渉の対象となり、日本が参加した場合、医薬品、農薬、食品添加物などの基準も緩和されることとなります。健康・環境・食への影響が心配です。

あなたに「できること」を宣言しましょう! はがきに書いて『MOGMOG 私の宣言』係へ!

皆さんにできることは... 何ですか?

放射能問題乗り越え、原発から脱却する社会に向けて

常務理事 風間 与治

東都生協残留放射能自主検査による12月までの結果は、「原木しいたけ」以外のほぼ全商品で放射性セシウムは「検出せず」(検出限界値2Bq/kg)でした。しかし不安による一部商品の利用低迷は回復せず、牛肉は前年比88%、関東野菜は85%、静岡産のお茶は65%など、産地や生協事業への影響は小さくありません。

昨年9月に静岡県藤枝市の「人と農自然をつなぐ会」を訪ねました。30年以上農業や化学肥料を使用せず、良い土を作り安全で良質な茶づくりを確立してきたのに、突然の放射性物質による汚染問題。忸怩たる思いを、生産者の涙は計り知れません。幸い、9月上旬に摘んだ番茶向けの茶葉からの残留放射能数値は大きく下がり、来年の新茶に希望も見えています。10月には東京電力への補償請求を進めるべく、弁護士の方を招いての学習会も開催。補償交渉は難航が予想されますが何とか一緒に勝ち取りたいと思っています。



JAやさと有機部会の方々と懇談をしました。有機農業に不可欠な腐葉土などを使用した堆肥の検査は速やかに実施されその数値も規制値を大きく下回り、生産活動には大きな支障がなく安堵しました。ただ、放射能不安による東日本産品の買い控え現象は、地域によっても温度差があるようです。食の未来づくり運動推進のためにも放射能問題乗り越え、原子力発電から脱却する社会づくりが欠かせません。今後、東都生協は新しい簡易型放射能測定器も使用し、加工品の検査、土壌検査も実施し被災地の復興と日本の食料生産基盤の回復に向けて前進します。



かぜのつぶやき

MOGMOG 新年クイズ

問題 今年のえと、たつが鏡餅に！ さて、たつの周りにある正月飾りの中に同じものが二つ。
どれとどれが同じか番号で答えてね！



参考にしてはがきを書いて送ってね。

- クイズの答え
- 住所／氏名(お子さんは学年も)／電話番号／センター・ブロック・班名
- 家でお正月に必ず作るお料理
- 食の未来づくり運動
「私にできること(私の宣言)」
- そのほか、イラストや一言コメント・感想など、なんでもどうぞ！



正解者から抽選で10人の方に
図書カードをプレゼント。



11月・12月号のこたえは「ナデシコ」だよ！

※お便りや個人情報は、『MOGMOG』やホームページなどでご紹介する場合がありますが、編集目的以外での使用はいたしません。
※お便りへの個別回答は行っておりません。
締め切りは1月25日(水)の消印まで有効。

〒156-0055 世田谷区船橋5-28-6 吉崎ビル4F 「MOGMOG」係